

中国ビジネスの鍵は物流

— 現地ビジネス網構築20年の経験から —

講師：株式会社アルプス物流 第一営業推進部
課長 岩前 秀氏

日時 2022年4月25日（月）18:00 ~

場所 道頓堀ホテル / 参加人数 44名



新型コロナウイルス感染拡大前の2019年10月、北京・天津への訪中国が行われました。訪問先企業の一つが株式会社アルプス物流。1990年代から東南アジアや中国などで国際物流網を展開する東証一部上場企業です。その中国部門の拡大に2001年から約20年間従事し続けた「中国物流のプロ」が岩前秀（しげる）さんでした。

ところが私たちの到着が渋滞で遅れに遅れました。岩前さんの講演はわずか20分ほどで中断。「この続きをぜひ日本で！」と熱烈なラブコールを送り続け、今回の記念講演でようやく実現しました。

国策をよく理解した物流会社か

中国ビジネスの鍵は物流である。国策をよく理解した物流会社か、国策に敏感か、それが非常に重要である。中国の物流は国策に必ずしも付いている。国策によって町が作られ道路網も敷かれるからだ。また、見積もりを依頼してすぐに回答が来るような物流企業に頼んでもいけない。中国ビジネスでは考慮すべき要素があまりに多いからだ。例えば輸送は「一般区」から、「保税区」から、「その他特別区」から、「海外」からスタートする。そしてゴールが一般区に、保税区に、その他特別区に、海外となる。それだけで $4 \times 4 = 16$ 通りの輸送手段となる。そこに顧客の個々の要求が入ると無数の解が発生する（ $4 \times 4 \times N$ ）。とても即答できるようなものではない。そこへの深い理解がないと中国でのビジネス展開はできない。

決定は社会主義、実行は民主主義

「中国の特色ある社会主義」と言われるが、それは末端に決定の幅を持たせていることだ。「決定は社会主義で、実行は民主主義」と言える。中国共産党中央のトップ8人で有無を言わずルールを決める。しかし各省・市レベルではそのルールを拡大解釈し、逸脱しない範囲で自由に考えている。社会主義にもいいところがある。

では日本はどうかというと、その反対（決定は民主主義、実行は社会主義）とも表現できるだろう。融通が利かずにやりにくい面がある。

中国の本当の姿は国内には見えない。誰も教えないし、文献も整っていない。報道や出版の自由もなく、プロパガンダばかり。3人以上が集まって研究すれば捕まってしまう。

「足でモノを言う人」がいる。すなわち沿海部にいる富裕層5万人がそれで、日本やアメリカへ頻繁に行く人たちである。海外に行かないと中国の姿はわからない。

日中逆転の実感（質疑応答にて）

【問】岩前氏が中国に在任した2001年からの20年間とは、まさに日中の経済力が逆転した時期に当たる。どのような実感か？

【答】中国はたとえカセットテープから一足飛びにDVDにいったようなもの。日本はカセットからCD、LD、DVDと段階を一つずつ踏んだ。中国は飛び越えることに何のためらいもない、良いと思ったらすぐに飛びつく。中国人は40%考えてゴーだ。そしてしたたかである。欧米諸国や日本に着いていっても「どこかで逆転しよう」という気持ちがある。すべてをスクラップしても、いつかビルドしてやろうという気概がある。日本人は過去「安いから」「手先が器用だから」といろいろなものを中国に作らせ、差益で儲けてきた。そのツケが回ってきたと言えるだろう。彼らのコピー技術は驚異的だ。日中逆転を肌で感じたのは2013-14年ごろだった。当時私は寧波に赴任していた。郊外の地方都市で日本企業の電子部品の偽物が作られているというので調べてみた。ところが本物よりも良いコピーを作っていた。偽物を作るのは違法だが、作ろうと思えば作れる能力がすでに備わっていた。「これはアカン」と実感した。日本が追い抜こうとすると、それ以上のものを作らないといけない。いまから追い抜くことはまず無理だろう。中国とどのように付き合っていくかを考えないといけない。日本は落ち目、頑張りんとイカン。

日中経済交流研究会 会長 坂元 正三

